

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2895000145		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター神戸松宮台(寿)		
所在地	神戸市北区松宮台2丁目1-3		
自己評価作成日	平成28年2月18日	評価結果市町村受理日	平成28年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigyosyoCd=2895000145-00&PrefCd=28&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・「ともに暮らす」を理念とし、お互いの個性・生き方を認め合い、スタッフ・ご入居者が地域の中でともにいきいきと輝いて生活ができるように取り組んでいます。</p> <p>・高台にあるため、リビングやテラスからの眺望は絶賛です。特に夕日がきれいで皆様に喜んでいただいています。</p> <p>・澄んだ空気の日当たりの良い畑で園芸作業をしています。</p>

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>互いの個性や生き方を認め合い職員や利用者が地域の中で生き生きと生活できるようにとの思いを込めて作られた「ともに暮らす」との理念を掲げ、職員は利用者の力が発揮でき個々の好みや希望にそった暮らしができるような支援に努めています。利用者の希望や思いをアセスメント記録に載せ職員間で共有し、個々のペースで暮らし希望に応じて毎日の入浴や散歩ができるようにしています。職員教育にも力を入れホームで行う研修に参加できなかった職員には個別や少人数で改めて伝えています。また、協力病院には入院施設もあり、訪問看護も含めて連携を密に取りできるだけ長くホームで暮らせるよう支援しています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに暮らす」という理念をもち、ともに笑い、語り、協力しながら家庭的な環境で共同生活を送れるよう支援している。また、ご家族や地域との絆・ふれあいを大切に、安心して暮らせるよう生活のパートナーとして支えている。	互いの個性や生き方を認め合い、職員や利用者が地域の中で生き生きと生活できるようにとの思いを込めて作られた理念は、入職時に職員に伝え毎朝朝礼で唱和し意識付けをしています。個々の利用者がその人らしい暮らしに向けカンファレンスやミーティングで話し合いながら理念が実践できるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物は地域の商店を利用し、地域住民としてご近所の方と気軽に挨拶を交わしている。	自治会には加入できませんが、散歩時には挨拶を交わしたり花をもらうこともあり、またホーム周囲のゴミ拾いを行うなど、日常的に地域に出かけ交流できるよう心がけています。近隣の方が庭の手入れに来てくれたり、手品などのボランティアの来訪、ホームの祭りには近隣の子どもの参加があり交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談でご家族の認知症相談を頂いたり、気兼ねなく来所していただけるよう施設見学はいつでも可能である事を地域に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者から地域の特色・地域行事・名所等の情報を得てイベントの活かすことができました。	会議は家族や民生委員、地域包括支援センター職員、近隣の介護施設管理者等の参加を得て隔月に開催しています。ホームから運営や行事等の報告を行い、意見交換を行っています。感染症予防や熱中症予防について意見が出され対策について説明したり、意見を受けて散歩の機会を増やすなど、ホームのサービスに活かせる有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	あんしんすこやかセンターや民生委員から地域の情報や関わりについて助言をいただいている。	運営上のことでわからないこと等があれば区の担当者に電話で聞いたり、行政から研修案内が届いた際には内容に応じて参加しています。行政の提案で始まった北区グループホーム連絡会にも参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議で定期的に勉強会や検討を行う等、ホームで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年に2回は身体拘束についての研修を行い、出席できない職員には管理者が個別に内容を伝え、全職員に周知できるように取り組んでいます。フロア入り口には鍵をかけていますが、利用者が外に行きたい様子があれば止めずに思いを聞き寄り添い対応しています。家族の希望もあり安全に移動できるよう夜間のみセンサーを使用している利用者もいます。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年2回の職場内研修を行い、外部研修があればスタッフに声かけを行い、意識向上を図っている。	高齢者虐待についての研修を毎年2回行い、今年度は更に追加で研修を全職員に行うことで、職員は知識を得て虐待の防止に努めています。また管理者は面談や日々職員へ声掛けをしながらストレスを感じていないか観ています。	

ニチイケアセンター神戸松宮台(寿)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している入居者の方がいます。権利擁護の勉強会を年1回行っている。	年に1回権利擁護についての研修を行い、派遣職員にも資料や研修報告書を見てもらいその内容を伝えています。現在入居前から成年後見制度を活用している利用者があり、管理者が対応しています。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に不安に思っている事を傾聴しながら、丁寧に説明を行い、納得の上契約して頂いている。	入居時に重要事項説明書と契約書にそって、丁寧に時間をかけて説明し項目ごとに質問に答えながら理解を得られるように努めています。制度の改正や契約内容の変更等があれば家族会や個別に説明をして同意を得ています。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者からは日々の生活の中で、ご家族からは来所時や家族会・運営推進会議等で意見・要望をお聞きしている。	利用者の意見は日々の会話の中から聞くようにかかわり、家族の意見は面会時や運営推進会議、家族会、法人によるアンケート調査等で聞いています。家族からの意見を受けて居室の掃除の徹底やレクリエーションの内容を充実させるなど、サービスの向上に活かしています。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や個別面談により意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月行うホーム会議の前には職員からの意見を募り、会議に欠席の職員も意見を書いて出せるようにしています。業務改善について意見が多く出され、役割分担についてや行事等の流れなど詳細に話し合い運営に反映しています。出席できなかった職員には議事録を回覧し周知しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修講座案内・キャリアアップ制度・保有資格制度等がある。 希望休・有給休暇を取得できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ホーム内での勉強会を実施。 研修・講座の案内・促進、受講のシフト調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区グループホーム連絡会に参加。 地域の会議に積極的に参加している。		

ニチイケアセンター神戸松宮台(寿)

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりご本人やご家族から要望等をお聞きし、常に会話・コミュニケーションを心がけている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望や意見をお聞きし、ケアプランに反映している。また、常に改善している。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族と話し合い、ADL等の変化を見極め、ケアプランを作成し、必要な支援を行う。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができることを見極め、家事・清掃等の役割をしていただき感謝の言葉を伝えている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と買い物に行かれたり、親族の集まりに参加をしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者の友人を招いたり、電話や手紙の支援をしている。	親戚や友人の来訪があり、居室や和室でゆっくり寛いでもらえるよう椅子を用意したりお茶を出すなど配慮しています。利用者と懐かしい場所等の会話のから家族に繋げ家族と出かけたり、法事や葬儀へ出席する事もあり、その際には家族との調整や利用者の身支度等の支援をしています。年賀状を書けるよう家族に友人の住所を聞いたり、葉書の準備や写真の印刷などの支援をしています。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	衝突しやすいご入居者との間に入り、お互いが安心して会話ができるよう支援している。座席にも配慮し、変更等している。		

ニチイケアセンター神戸松宮台(寿)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを把握できるよう話を傾聴し、寄り添ったケアを心がけている。	入居時に家族に今までの暮らしや希望等をアセスメントシートに記入してもらったり、以前利用していた事業所からの情報や直接面談し思いや意向を把握しています。入居後は日々の会話を記録に残したり会議の中で個々の利用者の思いや暮らし方の希望について話し合っています。思いの把握が困難な場合は、家族に生活習慣等を聞き本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを使用し、一人ひとりの生活歴等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを使用し、個々の日々の過ごし方を理解し、心身状態の変化の把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフよりモニタリング・アセスメントシートを用い情報収集をし、ご家族からの意見・要望を聞きながらサービス担当者会議を行い、ケアプランを作成している。	本人の思いや家族の意向、自立支援に向けたアセスメントの基、サービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。3か月毎に職員全員でモニタリングを行い、担当職員が再アセスメントを実施し、医療からの意見も得てサービス担当者会議を開き介護計画を見直しています。時には家族も会議に参加することもあり、参加できない時には事前に意向を聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の言動も記録に残し、変化や気づきがあれば情報を共有しケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況にあわせ、通院や急な外出にも対応できるように支援している。		

ニチイケアセンター神戸松宮台(寿)

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物等を通して地域との関わりを増やし、安全で安心した生活が送れるよう支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族にもご協力を得ながらかかりつけ医の受診を支援し、適切な医療が受けられるように支援している。	入居時にホームの協力医について説明し入居後のかかりつけ医について選んでもらい、現在は全員が協力医の往診を隔週で受けています。耳鼻科や眼科などの専門医の受診は家族の協力を得ており、緊急時等必要に応じてホームで支援しています。毎週訪問看護による健康管理を受け、利用者の体調の変化に応じて24時間相談できる体制を整えています。週に1回の訪問歯科は必要な方が治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調面・健康管理等を訪問看護の往診時に相談し、連携をとっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時はお見舞いに行く等、主治医やご家族とも連携をとり情報収集に努めている。	ホームの協力病院への入院が多く連携がとりやすく、見舞いに行ったり家族や病院と連絡を取りながら早期退院に向け話し合っています。退院前にはホームでの生活がスムーズに送れるようカンファレンスを行うこともあります。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアプラン作成時等にご家族の意見を聞き、相談しながら他のサービスの案内を含め、安心して終末期を迎えられるよう支援に努めている。	入居時に重度化した場合にホームで対応できることやできないことを説明し、医療行為ができず看取りの支援は行えないことを伝えていきます。重度化に伴い家族との話し合いを密にし、できる限りホームで暮らせるように支援していますが、他施設への転居や病院への入院も視野に入れて検討し支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年内勉強会に組み入れている。 直ぐに対応できるようマニュアルを目の届く場所に置いている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年内勉強会に組み入れている。 年2回の訓練を行っている。	年に2回行う消防訓練の内1回は消防署の立ち合いの下行い、夜間や早朝を想定し通報や避難誘導、初期消火の訓練を実施しています。運営推進会議で報告し、近隣に消防訓練の案内を行っていますが参加はまだ得られていません。また3日分の水や食料の備蓄をしています。	

ニチイケアセンター神戸松宮台(寿)

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の尊厳を重視し、挨拶・声かけを心がけている。 接遇マナーの研修でスタッフに徹底している。	入職時の法人の研修や定期的に行う接遇マナーやプライバシー保護の研修を受け、職員は丁寧な言葉遣いを心がけています。利用者に指示するような言葉掛けのないよう注意し、希望に応じて同性介助を行うなど、利用者を尊重した対応に努めています。不適切な対応があれば都度注意し、法人から接遇についての注意喚起があった場合には会議で伝えたり話し合っています。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常着の選択や食事の希望等ご本人の意思を伺っている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人が「部屋に帰りたい」「横になりたい」等出来る限り希望に沿って過ごすことができるよう支援している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿った衣服が着れるよう声かけ・支援をしている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒に献立・調理・給仕・食器拭き・片づけを楽しみながら行っている。	その日の食事作りの担当の職員が利用者の声を聴きながら旬のものも取り入れ献立を事前に決めています。時には利用者も一緒に買い物に行き、下ごしらえや盛り付け、テーブル拭き、食器洗い等できることに携わってもらっています。定期的に赤飯にしたり、お節やちらし寿司などの季節ごとの献立や誕生日に好きなものを聞いて作っています。おやつを手作りしたり、パイキングやホットプレートでお好み焼き等を共に楽しんでいます。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じてトロミ食やきざみ食等形態に配慮して提供している。 栄養のバランスを考え野菜を多めに摂っていただくようにしている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	不穏になる方もいますが出来るだけ毎食後に口腔ケアを行っている。 必要な方には訪問歯科で治療を行い、清潔保持に努めている。		

ニチイケアセンター神戸松宮台(寿)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄ができるよう夜間は声かけにて誘導している。	日々の記録から利用者の排泄リズムを把握し、其々のタイミングでトイレで排泄できるように声掛けや支援をしています。個々に合わせた支援の結果、失敗が減った利用者もあり、状況に応じた排泄用品の検討を行っています。排泄習慣が戻り布の下着に変えた方もおり、自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分の確保と朝の体操や散歩等で運動量を増やすように心がけている。朝食後にヨーグルトやバナナ等を摂取していただいている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて入浴をして頂き、ご本人の意向に沿った支援を行っている。	隔日の入浴を基本とし午前中から順番に声をかけながら希望のタイミングで入浴できるよう支援しています。希望に応じて毎日シャワー浴をしている方がいたり、拒否される方には家族の協力を得て声掛けの工夫をしながら入浴に繋げています。冬には脱衣室に暖房を入れ、毎回湯を入れ替えるなど気持ちよく入ってもらうよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけリビングで過ごして頂いているが、ご本人の体調により居室で横になるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の既往歴等を把握し、薬の用量・用法・変更等を確認し、ご本人の体調に留意しながら服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の今できる事を見つけて家事作業・園芸作業等声かけし、支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課の散歩に出かけたり、買い物に出かけたりと出来る限り外出の機会を提供できるように努めている。介護タクシーを使って花見や紅葉を見に出かけている。	季節を問わず毎日利用者の希望にそって散歩に出かけています。時には近隣のコンビニや薬局に行ったり、家族の協力のもと外食や外出している方もいます。桜の花見や紅葉狩りの外出行事を企画し楽しんでもらったり、近隣のデイサービスの行事に参加しています。	

ニチイケアセンター神戸松宮台(寿)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は特別な理由がない限りご本人の所持はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いをご本人の能力に応じて書いていただき、郵送している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物や行事の写真等をご利用者様と一緒に作り貼りかえている。	共有空間には利用者の関係性を考慮してテーブルの配置や席を決め、ソファや椅子を複数置き一人や少人数で過ごせる場所を作っています。行事の写真や利用者で作った貼り絵や塗り絵、生花を飾り季節を感じてもらえるようにしています。利用者の声を聴きながら室温の調整を行い、空気清浄加湿器を置き毎日清掃時に換気を行い快適に過ごせるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の希望で居室に戻ったりと自由にいただいているが、リビングで居心地良く過ごせるよう椅子の配置・テレビの位置等に工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が揃えた家具や馴染みのある道具等で居心地良く過ごせている。 居室前には表札や写真を張り、自室がわかる配慮をしている。	入居前に面接に行った自宅を参考にすることもあり、馴染みのものを持って来てもらうよう伝え、自宅で使っていたベッドやタンス、棚、椅子、テーブル等を家族と相談し過ごしやすいよう配置しています。以前に描いた絵や家族の写真を飾ったり、着物で作った屏風や仏壇などの大切にしていたものの他、CDデッキやラジオ、新聞などを置き、その人らしい居室作りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	電気のスイッチやトイレの水の流し方等目印や張り紙でわかりやすくしている。 庭への出入りも見守りで自由になっている。		